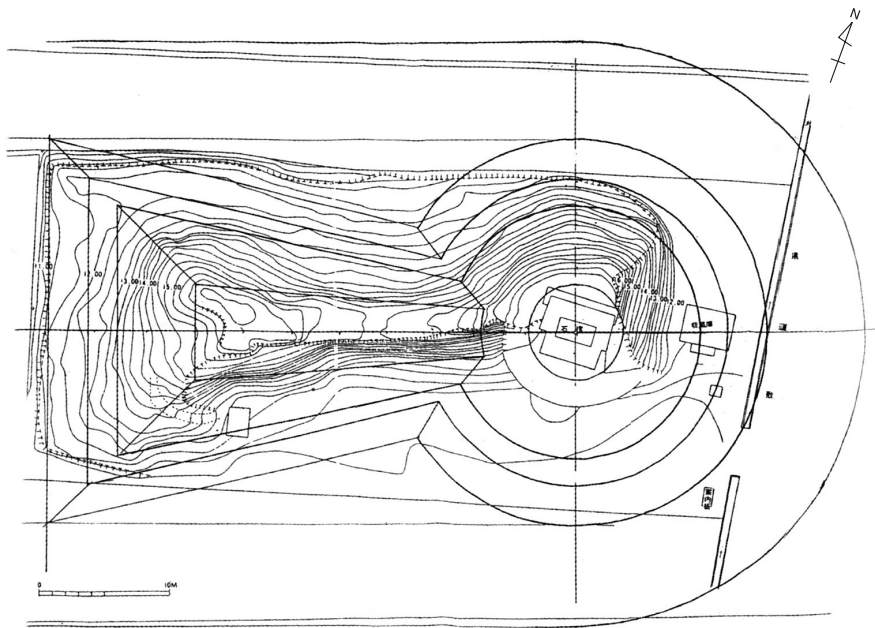


狐山古墳実測図



(測量：小島芳孝・金沢大学考古学研究会)



国指定史跡

きつね やま こ ふん

狐山古墳

狐山古墳の様子



発見当時の写真 (加賀市蔵)



狐山古墳石棺



狐山古墳出土品



狐山古墳出土品

二子塚集落の北側水田中にある前方後円墳です。これまでの古墳は丘陵尾根を削り出して、墳丘を構築したものがほとんどでしたが、狐山古墳は平地にあり、すべて盛土で作られています。昭和七年正月、近くの動橋川改修工事に伴う土砂取り作業中、石棺が発見されました。棺内から人骨とともに、おびただしい数の鉄製武器や銅鏡・銀製帯金具など、豪華で貴重な副葬品が出土したことから、上田三平によって調査され、国の史跡に指定されています。

昭和四九年の確認調査で、全長五六m、周囲に巾約一〇mの堀が巡っていたことが判明しています。

出土品の内容や墳丘の構築状況から、被葬者はエヌマ全体を支配した指導者であったと推定されます。前代で大聖寺川流域に移動したエヌマの王権が、この段階で再び動橋川流域に戻ったのでしょうか。

